指定管理者制度導入施設　モニタリングシート

施設名称	沖縄県国営沖縄記念公園内施設 （海洋博覧会地区内施設）	対象年度	令和4年度 （R5.2～3）

【 目 次 】

Ⅰ. 履行確認・評価

1. 維持管理業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
   (1) 施設維持管理
      1)維持修繕・保守点検
      2)清掃
      3)植物管理
   (2) 大規模修繕
   (3) 防犯・防災対策
      1)事故・災害防止
      2)安全点検
   (4) 利用者案内・警備

2. 運営業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
   (1) 利用実績
      1) 利用者数等
      2) 施設稼働率
   (2) 運営企画
   (3) 料金収受
   (4) 飼育展示
      1)水族館内
      2)海獣施設
   (5) 生物等管理
      1)水族館内
      2)海獣施設
   (6) 調査研究
   (7) 普及啓発
   (8) 飲食・売店営業
      1) 飲食施設等
      2) 物販施設等
      3) 自動販売機及びコインロッカー
      4)記念写真の撮影販売
      5)オンラインショップ（ECサイト）の運営
      6)環境への配慮、SDGsに関する取組み
   (9) 広報・誘客
   (10) 受付・接客
   (11) 情報管理

3. 自主事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

Ⅱ. サービスの質の確認・評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

Ⅲ. 財務状況の確認・評価 ・・・・・・・・・・・・・ 27

1. 事業収支
   (1) 収入
   (2) 支出

2. 経営分析指標

Ⅳ. 総合評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

1. 目標
2. 評価結果

附表 経営状況分析シート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

※必要に応じて項目を追加・削除する。

指定管理者制度導入施設　モニタリングシート

施設名称	沖縄県国営沖縄記念公園内施設(海洋博覧会地区内施設)	対象年度	令和4年度 (R5.2～3)
指定管理者	一般財団法人　沖縄美ら島財団 指定期間:令和5年2月～令和10年3月	所管課	土木建築部 都市公園課

Ⅰ. 履行確認

1. 維持管理業務

(1) 施設維持管理

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
1)維持修繕・保守点検・運転監視	○	○	【建物・設備・工作物点検及び修繕】 建物及び工作物等が常に安全で良好な状態を保つよう、巡視又は定期点検(法令点検含む)を行い、不具合の発見や発生があった場合には個所の修繕を迅速、かつ適切に行った。 【水槽の保守】 アクリルの傷や劣化、歪み等について、巡視等による点検を行った。水槽からの水漏れについて、漏水した海水が観覧に支障が出ないよう導水されているか巡視等による点検を行った。 【水質管理】 ろ過循環量調整・海水補給量調整を行い、ポンプの台数運転及びバルブ操作を実施した。また、適宜ろ過器の逆洗運転や「黒潮の海」給餌後の水槽内濁り復旧のため、海水補給水ポンプを追加運転した。 【点検記録の作成保管】 点検の記録を作成し保管した。 【運転監視】 ・中央監視盤にて、飼育設備、デマンド及び空気調和設備等の監視を行う等、日々の安全運転を確保した。また開場に向けて、照明点灯や空調機・昇降機等の稼働等を点検した。 ・飼育設備等、夜間の機器運転監視や不測の事態への対応のため監視員の配置を行った。 ・水族館内の巡視により館内が常に良好な状態を保つよう努めた。また必要に応じて空気環境測定等を行い、空気調和設備運転員との連携を図り良好な環境を維持した。	・設備日報、月報、ヒアリング等により確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。 ・入場者の快適な観覧を維持するため、水槽からの水漏れについて、漏水した海水が観覧に支障が出ないよう導水されているか巡視等による点検や適宜補修を適切に行われていることを確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・今後も継続して施設及び設備の状態を監視し、適宜補修・修繕を行う必要がある。 ・水漏れは施設稼働初期からの課題であり、「黒潮の海」水槽については補修を計画している。他の水槽については、稼働しながらの補修が難しいため、施設利用状況と漏水状況を注視しながら対応を検討する必要がある。

2)清掃	○	○	【日常清掃】 場所・部位別に防塵、掃き掃除、拭き掃除、ゴミの収集や衛生消耗品の補充や管理等の日常的な作業を行い、汚れの除去を行った。 【日常巡回清掃】 開場中において場所・部位別に防塵、掃き掃除、拭き掃除、ゴミの収集や衛生消耗品の補充や管理等を日常清掃後に巡回しながら行い、汚れの除去を行った。その他、感染症対策等として、手摺の除塵と消毒、手指消毒液の残量確認と補充・取替え、汚物処理の適宜対応と適正処理、アクリルガラスの部分拭きを行った。 【定期清掃】 場所・部位別に、週、月又は年単位の周期で定期的に行う清掃を実施した。 【塵芥回収】 施設内のゴミ集積所の塵芥を回収し、本部町今帰仁村清掃施設組合が指定する方法で分別したのち、本部町今帰仁村清掃施設組合まで運搬・持込みし処理した。 【臨時清掃】 上記に含まれない臨時の清掃として、館内の壁や天井の埃落しを行った。 【ねずみ等の防除(予防と駆除)】 食品等を扱う区域、排水槽、阻集器および廃棄物の保管設備の周辺等特にねずみ等が発生しやすい箇所の、生息状況の調査実施を行った。 【植栽地等清掃】 公園利用者の利用頻度の高い箇所について、園路は開園前の時間帯はブロア等を用い清掃した。芝地及び園地は塵芥、空き缶及び空瓶等を除去し、必要に応じて掃き掃除を実施した。 季節や荒天に左右される落葉や、時間帯や場所等、利用者の動向により左右されるゴミの発生状況を把握し、効率的な清掃を行った。 集積したゴミは適切に処理した。 落葉等の植物発生材はエコフレームに搬入し、景観的に影響が少ないものは、植栽地内へ掃き込んだ。 園路広場及び側溝等の塵芥、空き缶、空瓶及び土砂等の除去及び雨水又は車輌等による園路広場の汚れを必要に応じて掃除した。	・管理日誌、月報、ヒアリング等により確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・管理体制を継続し、良好な状態を維持できている。

3)植物管理	○	○	【花壇管理】 露地花壇への植え付け、プランター等の植え付け・設置、造形物花壇等への植え付け、臨時花壇植え付けを行った。 【芝生管理】 周辺の芝生地において芝刈り、必要に応じて除草、灌水を行った。 【地被植物管理】 水族館の屋上緑化において、定期巡回および目視による生育点検を実施した。 【観葉植物】 館内外の観葉植物等の入れ替え、手入れ、タッチプール周辺の植物の入れ替えを行った。 【壁面装飾】 ランおよび観葉植物等で壁面へ装飾(植物の手入れ等含む)を行った。 【その他】 プランターの移動、臨時花壇の設置、草花の手入れ、花がら摘み、枯死株の入れ替え等を実施した。	・月報、日報、ヒアリング等により確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・今後も安全衛生管理計画に基づき、適正な植物管理を継続実施する必要がある。

(2) 大規模修繕

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
1)大規模修繕の立案・協議・発注及び工事監理	○	○	・県と協議を行い策定した大規模修繕実施計画に基づき、「沖縄美ら海水族館飼育用ポンプの整備」の発注を行った。その他、劣化部品等の部分交換・取替え管理水準やサービス水準を維持向上させるために必要な、部分補修・部品交換等や施設の修繕を実施した。	・事業計画書、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・国や県の工事・設計基準等を遵守しながら大規模修繕を適切に実施し、要求される施設の性能を確保し良好に実施できている。 ・築20年を超え、近年見込んでいなかった修繕が生じており、点検による早期把握と優先順位を付けた計画の策定と着実な実施が求められる。

(3) 防犯・防災対策

事業計画	実施主体(該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
1)緊急時の対応(事故・災害防止) 防犯・防災については、国営沖縄記念公園防災計画等(危機管理マニュアル)に基づき、事件・事故・自然災害等予防の取組みを行う。 ・施設の使用状況を監視モニター及び入場者管理システムを活用し適宜把握するとともに混雑緩和に努める。 ・事故や災害が発生した場合は、体制を確立し、迅速かつ的確に情報を伝達、利用者の安全確保、避難誘導等を行う。負傷者が発生した場合は、迅速にその救済・保護の処置をとり、本施設設備に瑕疵があった場合は速やかに沖縄県に報告する。	○	○	・監視モニター及び入場者管理システムを活用し、施設の利用状況を適宜把握した。 ・館内の密集する箇所には、自動音声センサーを設置し、密集回避に努めた。 ・新型コロナウイルス感染予防ガイドラインを感染状況に合わせ、3密対策を考慮し来場者の混雑緩和に努めた。 ・水族館内滞留者数や周辺道路の混雑状況を注視しながら、他の公園駐車場へ分散させた。また、蛇行入場で入場者数を緩やかにした。一時的に混雑する時間帯があり、入場規制を実施した。 ・「危機管理マニュアル」に基づき実施した。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、救護室の利用を中止した。 ・救護対応マニュアルに基づき、軽微な怪我の処置でも絆創膏を手渡すなど接触を避けた対応とした。また体調不良者には近隣の医療機関案内図を配布するなど適切に対応した。 ・負傷者が発生した場合は、迅速にその救済・保護の処置をとり、救急車要請があった場合は速やかに沖縄県に報告した。 ・救護対応:36件 (内救急車要請:4件)	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・今後も混雑緩和と感染拡大防止に取り組む必要がある。
			●消防訓練等 ・火災、震災、異常気象、その他の災害・事故等の防止及び人命の安全並びに有事に際しての被害を最小限に止めるため、定期的に水族館職員に対し災害対策訓練を実施した。 ・3月20日 消防総合訓練(夜間体制)を実施。	・月報、実施報告書、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・今後も定期的に訓練や講習会を継続実施する必要がある。
2)安全点検	○	○	法令に基づく点検に加え、自主的に管理する項目を定め施設の安全点検を下記の通り徹底して実施した。 ・建築保全業務共通仕様書等にもとづき、設備機器の正常で良好な保全に努めた。 ・法令や建築保全業務共通仕様書等に定めのない設備機器等については、自主管理(点検要領)を定め正常で良好な機器保全に努めた。 ・消防法にもとづき点検等を実施した。 ・運営管理を遂行するにあたっては、関係する法令等の内容を理解し遵守するとともに、法令等にもとづき、要求される点検や資格を特定の上、有資格者による点検を実施した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・今後も安全衛生管理計画に基づき、法定点検、自主点検を継続実施する必要がある。

(4)利用者案内・警備

事業計画	実施主体(該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
1)接遇・多様な利用者サービス等 すべての利用者が快適に楽しめるよう施設や接客など、教育を受けた案内員を配置し、接客にあたる。	○		・年間を通して券売・改札・案内員・警備員を配置し、スタッフミーティングや国営公園管理業務受託者と連携を行い料金収受、案内業務、場内整理、警備・巡視を行いつつ満足度向上に務めた。	・日報、案内員配置表、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
2)警備・駐車場運営等 ・適切な情報提供と誘導 駐車場の満空情報を多様な利用者に対応した方法で提供する。 過去データにもとづく、事故に対する注意喚起を実施する。 駐車場に警備員を配置し、安全な入庫誘導を行う。 ・混雑時対応 混雑が予想される際は、警備員の増員等を行う。 ・緊急時対応 駐車場内での事故発生時には、救護や誘導等人命を最優先とした適切な対応を行う。	○	○	・国営公園管理事業者と連携し駐車場の満空情報をカーナビ(vics)等へリアルタイムで提供した。 ・駐車場各所に警備員を配置し、警備、誘導を実施した。 ・駐車場内での事故発生については、自損事故(車両同士の対物事故)等。人身事故、施設破損等はなし。 ・事故処理件数:14件	・月報により確認した。 ・水族館内滞留者数や周辺道路の混雑状況を注視しながら、北ゲート立体駐車場を封鎖し、他の公園駐車場へ分散させていることを確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・今後も混雑緩和と感染拡大防止に取り組む必要がある。

※必要に応じて項目を追加・削除して記入すること。

※「事業計画」欄は、当初の年間事業計画を記載するものとし、変更した場合には変更後の内容も記載すること。

※「現状分析・課題」欄は具体的に記入すること。

1. 維持管理業務 取組改善案	・大規模修繕について、築20年を超え、近年見込んでいなかった修繕が生じており、点検による早期把握と優先順位を付けた計画の策定と着実な実施がもとめられることから、引き続いて同計画に基づき県・国・指定管理者とで調整し実施する。 ・今後も利用者の安全・安心を確保するため、混雑緩和と感染拡大防止に取り組む。

※「1. 維持管理業務」の各項目の「現状分析・課題」等を踏まえて、現年度(R5年度)の主な取組改善案を記入すること。

2. 運営業務

(1) 利用実績

1) 利用者数等

		令和3年度実績（年間）	事業計画（目標値）	令和4年度実績（2ヶ月）	整合性の検証		現状分析・課題
					前年比	計画比	
利用者数	個人利用者数	555,893	－	412,335	74.2%	－	・10月からの全国旅行支援の実施によって、個人旅行が増加し、修学旅行が回復した。また、水際対策の緩和による外国人客が増加しており、それに伴い入館者数が計画に比べて大幅に増加した。
	団体利用者数	64,222	－	65,506	102.0%	－	
	合計	620,115	279,000	477,841	77.1%	171.3%	
	教室・イベント参加者数（内数）	10,720	－	4,921	45.9%	－	
				評価（①利用状況）		S	

【評価基準（①利用状況）】
目標値に対する達成率
Ｓ：110%以上
Ａ：100%以上、110%未満
Ｂ：80%以上、100%未満
Ｃ：80%未満

2) 施設稼働率

	令和3年度実績（年間）	事業計画（目標値）	令和4年度実績（2ヶ月）	整合性の検証		現状分析・課題
				前年比	計画比	
平均稼働率	242日	59日	59日	24.4%	100.0%	臨時休場が無く、計画どおり開場した。
平日・土日祝日別稼働率	平日163日 土日祝日79日	平日41日 土日祝日18日	平日41日 土日祝日18日	－	－	
			評価（①利用状況）		－	

施設稼働率を①利用状況の評価項目とする場合に本欄を使用する。

【評価基準（①利用状況）】
目標値に対する達成率
Ｓ：110%以上
Ａ：100%以上、110%未満
Ｂ：80%以上、100%未満
Ｃ：80%未満

(2) 運営企画

事業計画	実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	(事業報告書)	(現地確認)		
【開場日数・運営日数】 (当初計画) 通常期(2月、28日間) 繁忙期(3月、31日間) (変更計画) 通常期(2～3月、59日間)	・営業日数は59日 ・県へ開場時間の変更申請を行い、令和5年2～3月は通常期として営業した。	・売上報告書、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・施設の効率的な運営と収益確保のため、通常期・繁忙期の時期見直しが行われており、今後も随時見直しを行っていく必要がある。
【開場時間・運営時間】 (当初計画) ・水族館及び総合休憩所 通常期:8時30分～18時30分 繁忙期:8時30分～20時00分 ・海獣施設及びウミガメ施設 通常期:8時30分～17時30分 繁忙期:8時30分～19時00分 ・P7立体駐車場 通常期:8時00分～19時00分 繁忙期:8時00分～20時30分 ・上記以外の施設 通常期:8時00分～18時00分 繁忙期:8時00分～19時30分 (変更計画) ・水族館及び総合休憩所 通常期:8時30分～18時30分 ・海獣施設及びウミガメ施設 通常期:8時30分～17時30分 ・P7立体駐車場 通常期:8時00分～19時00分 ・上記以外の施設 通常期:8時00分～18時00分	・県へ開場時間の変更申請を行い、令和5年2～3月は通常期として営業した。			

(3)料金収受

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
・沖縄県国営沖縄記念公園内施設の設置及び管理に関する条例第10条、第11条に基づき、入場料の収受に関する業務及び入場料の減免に関する業務等を実施する。 ・適切な経理管理	○		・法令、条例、定款及び会計規則に基づき、適切に入場料の収受に関する業務及び入場料の減免に関する業務を実施した。 ・入場管理システムを運用し、チケット発券・入場者カウント・入場料売上を管理した。 ・観光券(クーポン・バウチャー)の実施要領等を定め、旅行会社との契約を締結し料金精算等を実施した。 ・年間パスポートの料金精算及び発行等、年間パスポートシステムの運用、会員特典の付与等を行った。 ・クレジットカード及び電子マネー契約による利用受入れ、料金精算(料金授受)、利用手数料の支払いを行った。 ・金庫内の現金実査を毎月2回実施し、期末には監査法人の確認を受け、現金管理に問題がないか確認作業を徹底した。	・料金徴収フロー図のとおり実施されていることをヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・令和4年10月からの入館料金の改定に向けた各種変更作業が滞りなく実施できている。

(4)飼育展示

事業計画	実施主体（該当者に○印）		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	（事業報告書）	（現地確認）		
1)水族館内 本施設のメインテーマである「沖縄の海との出会い」を基本に、「南西諸島・黒潮の海」の多様な生物の生態を来場者が正しく理解し、学習・体験できる展示構成とする。また、世界最大級の大型水槽を中心とした、大型希少種の長期飼育や、独自の繁殖技術による持続性の高い飼育展示を行う。これら全ての飼育生物に対しては、世界水準の動物福祉評価に基づいた飼育環境を提供する。更に、生物の新規展示や調査研究活動による話題や知見の拡充を通して、利用者の満足度向上および利用促進に努める。	○		・南西諸島の海洋生物を中心に、約740種、10,000点の展示を行った。黒潮の海大水槽では、世界最大の大きさを誇るジンベエザメや、複数のナンヨウマンタ、世界唯一のオニイトマキエイやヒメイトマキエイ等の大型板鰓類の展示を行った。サンゴ礁域や深海域の生物に関しては、春の季節に合わせ、ハナイカやサクラダイなど、名前に“花”や“桜”と付けられた色鮮やかな生き物たちにフォーカスした企画展示を実施した。また、当館で独自開発した人工子宮装置を用いたヒレタカフジクジラの胎仔の展示を実施した。動物福祉に関しては、昨年度の外部評価に基づき、適正な生物管理を実施した。	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。 ・希少種の繁殖や保全に資する飼育技術も向上しており、動物福祉に対応した生物の適正な管理を実施できている。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・世界初や唯一の展示を含め、新規展示を継続して実施できているほか、話題性を意識した企画展示を行っている。 ・来場者数がコロナ禍以前の状態に回復しつつある中、継続した各種企画展示を実施していく必要がある。
2)海獣施設 海洋生物の特性・能力といった生態に関することを学び、体感できるとともに、生態保護・繁殖等の海洋環境への理解を深めてもらうことを目的として、海生哺乳類、ウミガメ類及びメキシコ政府より寄贈され、飼育・繁殖を行っているマナティーの飼育展示を行う。 更に、繁殖による効果の高い展示、解説等による情報伝達を行い、動物倫理にも十分考慮した生物と親しむ教育プログラムとして提供することで、環境学習の場として利活用し、利用者の満足度向上及び利用促進に努める。	○		・オキちゃん劇場ではイルカショーを実施し、1才の繁殖オキゴンドウ「ライズ」の展示を行った。イルカラグーンでは令和4年4月1日に人工授精により誕生したバンドウイルカの展示を行った。マナティー館では1才の繁殖マナティー「キュウ」の展示を行った。ウミガメ館ではアカウミガメとタイマイの同季繁殖に成功し、生まれた子ガメの展示を行うとともに、近隣の小学校と連携した環境教育プログラムを実施した。	・月報、管理日誌、完了報告書、ヒアリング等により確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・すべての飼育動物において健康管理に努め、動物福祉に配慮した、良好な飼育展示や普及啓発を実施できている。

(5)生物等管理

事業計画	実施主体（該当者に○印）		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	（事業報告書）	（現地確認）		
1)水族館内 飼育生物の適切な飼育や繁殖を実施するために、動物の健康状態を十分に把握し、健康管理に努めるとともに、常に良好な状態で飼育、育成、繁殖等を行う。また、安定的な生物展示のため、計画的な補充に努め、自然界からの捕獲収集は最小限にとどめるため、希少種や水産資源重要種等の飼育下繁殖に努める。	○		・飼育生物の健康に十分配慮し、良好な飼育環境の維持ができた。特にジンベエザメ等の大型板鰓類については、定期的に超音波画像診断、採血や計測により、健康状態の維持に努めた。また、展示の質の維持および向上のため、漁業者と連携し、計画的な補充に努めるとともに、飼育下繁殖の促進や、完全養殖魚を導入する等、自然界への捕獲収集を最小限にとどめた。	・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。 ・CITES（ワシントン条約）対象種であるナンヨウマンタの累代繁殖や、シノノメサカタザメの飼育下繁殖、イバラエイ繁殖個体の長期育成や人工子宮を用いたヒレタカフジクジラの人工出産なども計画されていることを確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・自然環境負荷の低減及び安定的な生物展示の観点からも生息域外保全の機能の拡充が求められる。

2)海獣施設 飼育生物の適切な飼育、繁殖を実施するために、動物の健康状態を十分に把握し健康管理に努めるとともに、常に良好な状態で飼育、育成、繁殖等を行う。また、安定的な生物展示のため、計画的な補充に努め、自然界からの捕獲収集は最小限にとどめるため、希少種、水産資源重要種等の飼育下繁殖に努める。	○		・飼育生物の血液検査や体重測定等を定期的に実施し、良好な飼育ができた。特に1才になるオキゴンドウやマナティー、昨年生まれたバンドウイルカについて、体重測定を定期的に実施し、成長等のモニタリングを行った。ウミガメ類においては、繁殖に成功したアカウミガメおよびタイマイを展示し、生まれた子ガメの育成を適正に行った。	・飼育日誌、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・すべての飼育動物において健康管理に努め、良好な飼育展示を実施できている。各種の繁殖についても計画通りに実施できている。

(6) 調査研究

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
展示生物として注目度の高い板鰓類(サメ・エイ類)の持続的な展示と保護保全のための調査研究及び技術開発を行う。 ①飼育個体による繁殖に関わる生理及び生態学的な情報の取得 ②標本調査や遺伝子分析による性成熟等の基礎情報の収集 ③人工子宮装置による希少板鰓類の飼育下繁殖と保全活動への応用	○		①ジンベエザメおよびマンタ類の定期採血による生殖ホルモン等のモニタリングを継続 ②令和5年4月以降の実施に向けて準備中。またジンベエザメの消化メカニズムに関する学術論文一報を出版した。 ③引き続き人工子宮の開発を継続	・ヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 【外部評価委員(※指定管理者が調査研究や普及啓発事業の内容を効果的なものとするために独自に委嘱しているもの。以下同)コメント】 ・研究目標に沿った成果を順調に達成している。継続的な採血やエコー検査などから得られた多くの知見を公開している事は高く評価できる。データロガーの採用で今後の成果を期待している。 ・本年度もオンラインイベントや、書籍の出版など、社会に向けた積極的な啓発活動が行われていることは大きく評価できる。これらの事業はマスコミにも取り上げられ、水族館や総合研究センターのPRに大きく貢献している。 ・人工子宮技術の発達は注目に値する。
主要な展示生物である硬骨魚の持続的な展示と保全保護のための調査研究及び技術開発を行う。 ①新規展示生物の導入試験 ②飼育下繁殖等による持続的な展示に関わる飼育技術の開発 ③加圧水槽等を活用した飼育困難種の展示 ④ROV等を用いた沖縄周辺の生物相や生息環境の調査及び飼育環境への還元 ⑤国内外の研究機関と連携した新種や初記録種等、生物種の記載と生物多様性の理解に資する展示解説	○		①新たな展示生物として、コノハズウクラゲ、イソアイナメを追加した。 ②3Dプリンターによる整流装置などを開発した。ブダイ類の繁殖行動を追跡中。 ③ヒメソコホウボウ、ホクロキンチャクフグ等32尾について加圧水槽を用いた減圧治療を行った。 ④本島周辺海域において1回のROV調査および2回の深海釣り採集調査、久米島周辺海域において1回の深海かご採集調査を行った。 ⑤WWFジャパンや日本魚類学会と連携した石垣島希少淡水魚の生息域外保全活動に際し、イシガキパイヌキバラヨシノボリの飼育下繁殖およびマニュアル化に向けた基礎情報を取得した。			・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 ・新規の飼育や健康管理技術を用いて飼育の成功、ROVなどを用いた採集調査、さらに圧力水槽を利用した深海性魚類の飼育展示は評価できる。

小型鯨類及びマナティーの飼育下繁殖及び長期飼育に向けた技術開発を行う。 ①性ホルモンや精液性状等の長期モニタリング ②飼育下繁殖による分娩や育児等に関する記録 ③世界初のイルカ人工尾びれ開発等の実績を活用した、老齢個体、傷病個体、緊急保護動物のリハビリテーション技術の開発 ④新興真菌等の遺伝的及び疫学的調査 ⑤確定診断及び治療データ補完による診断や治療技術の向上 ⑥長期飼育に向けた動物の福祉向上に資する調査	○		①シワハイルカの繁殖に備え、メスの血中性ホルモンのモニタリングおよびオスの精液検査を定期的に実施した。 ②飼育下繁殖個体の授乳モニタリングを実施した。 ③高齢ミナミバンドウイルカの口腔内扁平上皮癌に対し、Mohs軟膏治療を行い、病状の進行抑制を実施した。 ④琉球大学と共同体研究を行いクジラ型パラコクシジオイデス症に関する学術論文1報発表した。 ⑤イルカ類の肋骨･骨折･肺炎のCT画像による確定診断プロトコルの開発を引き続き実施した。 ⑥開発した人工尾びれの装着および遊泳能力の向上を確認。引き続きQOLの改善を目的としたリハビリテーションを実施した。		・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 ・人工授精に向けた飼育鯨類の精液採取は重要なテーマである。採精困難な個体については，環境・行動・栄養状態・年齢などのさまざまなファクターが考えられるので，あらゆる可能性を探りながら数多くトライすることが重要。また，生理学的なアプローチも有効なので是非取り入れた方が良い。 ・今般治療マニュアルが出版されたことは高く評価できる。美ら海水族館の経験を活かした鯨種ごとのハズバンダリー（動物のトレーニングや取り扱い）マニュアルの作成に期待したい。
ウミガメ類の持続的飼育に向けた飼育下繁殖技術や、長期飼育や緊急保護に対応する健康管理技術の向上を図る。また、地域や関係機関と連携し野生個体の保全に向けた調査を展開する。 ①緊急保護や野生復帰に対応した健康管理技術開発 ②沖縄島のウミガメ保全のため、国際自然保護連合（IUCN）や日本ウミガメ協議会等の専門委員等として協力 ③市民ボランティアと連携した産卵及び漂着状況モニタリング ④標識放流や衛生タグ、遺伝的手法等による生態調査	○		①2件の緊急保護に対応した。冬季のため、野生復帰は実施なし。 ②関連会合の開催なし。 ③5件の漂着調査に対応した。 ④確認数が少ない時期のため実施なし。		・野生個体の保全に向けた取り組みを実施している。 【外部評価委員コメント】 ・予算が少ない中、色々努力している様子はみてとれる。今後はもっと本質的なテーマを設定し、それに向かう姿勢が欲しい。例えば子ガメの生態研究などがある。 ・沖縄島の産卵やストランディングの調査や支援は望ましいので、継続してほしい。
飼育サンゴ類の持続的な展示に関連する調査や繁殖技術向上を図るとともに、野生個体群の保護保全に関する調査を行う。 ①飼育サンゴの成育や成熟等に関する調査研究 ②新規展示種の展示に向けた飼育技術開発 ③サンゴ類の飼育下で繁殖した幼生等を活用した野外復帰調査	○		①産卵期外のため活動なし ②③新規展示および繁殖幼生を用いた野生復帰調査について、機材および法的側面に関する情報収集を開始した。		・オフシーズンのため具体的な取り組みは実施していないが、繁殖や維持管理に向けた情報収集や準備を実施している。 【外部評価委員コメント】 ・サンゴ礁のモニタリングにおいて、魚類相に変化が出たとしているが、今後の継続もしてほしい。また、棘皮動物や軟体動物のモニタリングも期待している。

水生生物相の把握、標本等の自然史資料を収集することにより、自然史研究による学術振興、標本収集、普及啓発活動を展開し、博物館的な役割を担う事業を展開する。 ①標本等の自然史資料収集 ②沖縄周辺海域の生物相調査及び環境DNA等の技術開発 ③標本の同定、新種、日本新記録種の記載 ④他の研究機関や水族館からの標本同定依頼、標本貸出依頼への対応 ⑤標本等の学術資料の適切な管理 ⑥研究成果の教育普及事業への活用 ⑦国内外の研究機関への情報提供	○		①③⑥今期での活動なし ②久米島深層水調査1回、北部沿岸の調査5回、北谷沖魚類相調査1回を実施した。 ④標本貸し出し2件に対応した。 ⑤所蔵標本のメンテナンスは随時継続中 ⑦所蔵標本に関する問い合わせ2件に対応した。		・貴重な標本を高品質に保つための取り組みを継続的に実施している。 【外部評価委員コメント】 ・標本がより充実し、展示や部外への貸し出し標本に基づく論文の出版などに貢献していることは評価できる。新種、新記録種はその性格上可能な限り遅滞なく公表されることが望ましく、外部専門家との連携も重要である。 ・生物蛍光に関しては、本課題のひとつの柱として研究の進展を期待している。 ・深海環境DNAの研究の成果発表を期待する。
在来希少種の生態や現況を把握し、保全に寄与する技術開発を行う。 ①海洋博公園内の希少種調査、外来種対策調査 ②在来種の生息域外保全に資する繁殖学的調査、技術開発 ③環境省認定希少種保全動植物園等制度を活用したイボイモリ等の国内希少野生動物種やワシントン条約（CITES）掲載種等における保全繁殖学的調査 ④緊急保護や繁殖技術向上及び生息域外保全活動の実施	○		①希少種ヤシガニの生態調査および外来種ウシガエルの駆除作業を実施した。 ②希少淡水魚であるヒョウモンドジョウの継代飼育およびタウナギの飼育下繁殖に関する実験を開始した。 ③沖縄県指定天然記念物のイボイモリについて、繁殖用の成体4個体を導入した。 ④環境省よりリュウキュウヤマガメ1個体の保護個体を受け入れた。		・希少種の飼育下繁殖などの取り組みを継続的に実施している。 【外部評価委員コメント】 ・ヒョウモンドジョウの繁殖は評価できる。
冬期に来遊するザトウクジラの生態を把握し、資源管理に資する情報収集や地元観光業（ホエールウォッチング）に寄与する。 ①個体識別調査（30年以上継続）や回遊調査等の長期モニタリングによる資源状態の把握や予測 ②鯨類相を把握するため、漂着個体や混獲個体の調査や標本の収集 ③ウォッチング事業等が鯨類に与える影響調査 ④水中マイクを用いた鯨類の音響モニタリング調査 ⑤沖縄・奄美海域における衛星タグを用いた追跡による行動調査 ⑥地元観光業者（ウォッチング事業等）への情報提供や情報収集 ⑦海外の研究機関と連携した生態調査の実施 ⑧ドローン等の最新技術を用いた成育状況調査の実施	○		①計15回の調査により403頭分の個体データを取得した。 ②沖縄周辺にて3例の鯨類漂着情報を収集した。 ③合計14回の調査を実施し、30群の影響評価データを取得した。 ④合計7例の音響データを取得した。 ⑤合計3個体について衛星タグを装着し、行動データを取得した ⑥昨年12月に実施した会合の結果を受け、本種の保全に関わる状況と対応策について、関連機関との各種調整を開始した。 ⑦Pacific Whale Foundation、NOAA他との連携調査を実施した。 ⑧ドローン調査により、4例の画像データを取得した。		・地元の重要な観光資源の持続発展的利用に根差した基礎調査、応用調査、地域との連携などの取り組みを、継続的に実施している。 【外部評価委員コメント】 ・本研究に関連するコメントは特になし。

地域の漁業者等と連携し、展示生物の取得技術の向上、水産資源の新規開拓や養殖技術開発等により地域の産業振興へ寄与する。 ①展示生物の水産種苗としての導入技術の向上 ②水産資源の新規開拓や養殖技術開発 ③新規養殖対象種及びそれらの繁殖技術の開発 ④財団の特許技術等を活用し、自治体や関連機関との連携による水産業振興への貢献 ⑤地元の漁協との連携や協定による新規展示生物の情報収集	○		①冬季にあたるため利用できる受精卵は得られていない。 ②シラヒゲウニの収量を増大させる飼育方法を開発した。 ③ヒョウモンドジョウの大量培養に関する基礎調査を開始した。 ④パラオ共和国および宮古島への特許技術（カツオ漁の活き餌トラップ）については引き続き運用中。 ⑤北谷町の沈没船周辺の魚類群集の調査および展示生物採集を実施した。			・水族館事業で培った知識や飼育技術を地域産業振興に活用し、新たな技術開発を含めた貢献につながる成果が得られている。 【外部評価委員コメント】 ・本研究に関連するコメントは特になし。
沖縄の海洋文化や漁労文化の調査を実施し、沖縄の人々と海洋生物や自然事象との関わりについて検証する。 ①造船、操船等、船にまつわる伝統技術の調査研究 ②地域教育委員会、各種研究機関との共同調査、研究 ③調査成果の地域への還元、協働	○		・鹿児島県奄美市住用町にある原野農芸博物館所蔵のスブネ（丸木舟）の保管状況や展示計画について情報提供を受けた。 ・奄美市立奄美博物館の歴史・民俗担当学芸員と伝統的造船技術の継承状況について情報交換を行った。 ・奄美市在住の船大工、坪山良一氏が建造した伝統的木造船・アイノコの進水式に上記博物館関係者らとともに参加し、写真・映像の撮影ならびに建造技術に関する聞き取り調査や情報交換を行った。			・コロナ禍において実施した調査研究の成果を被調査団体などと共有し、各地域の伝統技術・文化の活用と維持に役立てることができている。 ・すでに実施した調査については今後とも地元とのパイプを維持するとともに、成果を海洋文化館等での講座などに活用して、広く一般に還元するスキームを確立する必要がある。 ・コロナ禍に実施を見送ってきた事例に関する調査を再開し、成果の充実を図る必要がある。 【外部評価委員コメント】 ・本研究に関連するコメントは特になし。
調査研究事業の推進に際し、国内外の研究機関とMOU（覚書）や包括連携協定を積極的に締結し、研究体制の連携を強化しつつ効果的に事業を展開する。	○		・ 琉球大学、OIST、高知大学、大阪大学、理化学研究所、材料・物質研究機構、沖縄県衛生環境研究所等の各研究室との共同研究を引き続き実施中。 ・ ザトウクジラ調査ネットワーク「SPLASH-2」の日本代表組織としての取り組みを引き続き実施。			・コロナ禍の緩和により、徐々に活発化し、従前の状況に戻りつつある。 ・今後も積極的に様々な研究機関との共同研究を実施する必要がある。 ・令和4年度合計では36編の論文数であり、活発な成果報告が継続されている。 【外部評価】 ・本項目は各種研究事業にまたがっているため、外部評価委員会における個別の評価は行われていない。外部評価委員会では研究事業全体の成果説明の際に本件について紹介し、了承されている。
調査研究活動で得られた情報は、学会や学術論文等にて発表するほか、本施設の展示に反映させるとともに、大学等他の機関での講座や、一般向けの講演会、収益施設における冊子や学習グッズの販売等を通して積極的に普及啓発を行う。特に、自然環境保全に資する研究成果については、報道機関等へ向けたプレス発表を行い、成果を広く公表し保全への関心を高めるよう努める。また、本施設や研究センターのホームページにて各活動の最新情報を発信する。	○		・ 令和5年2-3月で合計4編の論文が掲載された。 ・ 水族館およびおきみゅーで開催された展示会2件に対応した。 ・ 一般向けの講習会およびトークイベント8件に対応した。 ・ ホームページの活動報告は随時更新。			

(7)普及啓発

	内容	令和3年度実績（年間）	事業計画	令和4年度実績（2ヶ月）	整合性の検証		現状分析・課題
					前年比	計画比	
教室	【インタビュー学習】 県内外の学校や教育関連団体からの質疑応答に対応する。	【遠隔・メール対応】 12件144名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	5件126名	42%	－	・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で来館できない学校団体からのオンラインやメール等での依頼もあったが、対面での依頼に回復傾向が認められた。 ・引き続き全国の学校からの利用確保に向けて取り組む必要がある。
	【バックヤード見学】 水族館の裏側を見学し、飼育員の作業現場や水族館の設備について学ぶ。	19件297名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	9件128名	47%	－	・新型コロナウイルス感染症対策を行いながら県内外からの受け入れを継続した。 ・今後も感染状況を見ながら受入れ人数を調整し、実施する必要がある。
	【講師派遣】 水族館の役割や飼育員のお仕事、生き物について講話する。	14件547名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	1件82名	7%	－	・オンラインと館内で対応し、良好に実施できている。 引き続き県内外学校の利用増に向けて取り組む必要がある。
	【オンライン講座（有料）】 スライドや標本等を使い、生き物の生態等についてオンラインで職員から学ぶ。	13件955名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	1件52名	8%	－	・普及啓発と収益プログラムとして学校や医療、福祉機関等を除く、一般向けに実施。
	【生きもの観察プログラム】 生体や標本等を使い、生き物の生態について学ぶ。	8件647名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。 福祉関連施設、離島等での移動水族館の実施。	2件85名	25%	－	・新型コロナウイルスの影響が続き、実施件数が伸びなかった。 ・次年度は利用数回復に向けて取り組む必要がある。
	【遠隔授業】 全国の病院・特別支援学校を対象に、生体や標本等を使い、生き物の生態について学ぶ。	91件1,796名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	13件323名	14%	－	・全国の医療機関や海外からの依頼に対応した。 ・今後も継続して取り組む必要がある。
	【触察プログラム】 県内外の視覚特別支援学校を対象に、生体や標本等を使い生き物の生態について学ぶ。	8件67名	視覚障害者への教育プログラムの開発及び実施	0件0名	0%	－	・期間中の実施なし。
	【移動水族館】 地域のお祭り等に生き物を積んだ活魚車で訪問し、水族館のPRや海洋生物の知識普及啓発を実施する。　　(7,8,1,2月のみ)	1件418名	環境関連展示会への出展	－	0%	－	・地域還元事業へ移動
	【ふれあい水族館】 水族館への来館が困難な方々（病院・福祉施設・離島等）を対象に、生き物を積んだ活魚車で訪問する。 (7,8,1,2月を除く)	3件639名	福祉関連施設、離島等での移動水族館の実施	1件914名	33%	－	・沖縄県立図書館「空飛ぶ図書館」と共催し実施。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、医療・福祉施設での実施はできなかった。 ・医療・福祉施設での実施については、感染状況に応じて対応する必要がある。
	【職場体験】 県内の小学高学年（ジョブシャドウ）、中・高校生に対し、飼育員のお仕事体験を通して、働くことに対しての関心や職域を広げる。	6件16名	職場体験及び学校行事等の教育普及に対しての協力及び指導。	1件3名	17%	－	・新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を講じて実施した。 ・次年度はコロナ前の体制（2日間）に戻すことを検討する必要がある。

	【飼育実習】 県内外の大学または専門学校において、水産または動物系を専攻している学生を受け入れ、飼育展示・解説業務等の実習を通し、実践的教育活動を提供する。	13件13名	飼育実習及び博物館実習の実施。	8件8名	62%	－	・新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を講じて実施した。
	【紙芝居読み聞かせ】 保育園や幼稚園を対象に、園内外で海の生き物を題材としたオリジナル紙芝居の読み聞かせやぬり絵を実施する。	【遠隔】11件445名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	7件282名	64%	－	・新型コロナウイルス感染症対策としてのオンライン対応を継続しつつ、対面での依頼を受け入れた。 ・引き続き地域学校等を対象に受入れを行う必要がある。
	【映像貸出】 県内外の病院を対象に、展示生物の映像を貸し出し、癒し効果を与える。	10件	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	0件	0%	－	・期間中の申請なし。
	【サンゴの苗作り体験】 水族館で飼育しているサンゴを活用し、参加者に苗を作成してもらう。作成した苗は「サンゴの海」水槽に1年間展示する。また毎月HP上に苗の状態を報告し、繁殖・増殖への取り組みを広くPRする。	8組20名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	－	0%	－	・期間中の実施計画なし。
	【ウミガメ放流会】 環境教育の一環としてウミガメの放流を実施し、来場者の環境保全に対する意識向上を図る。	－	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	－	－	－	・期間中の実施計画なし。
	【ウミガメから学ぶ環境学習】 小中学校および教育委員会等と連携し、ウミガメとウミガメを取り巻く環境に関わる学習を実施し、環境保全意識の向上を図る。	2件270名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	3件192名	－	－	・新型コロナウィルス感染症防止対策を実施した上で、瀬底小学校、上本部学園、緑風学園の計3校が参加した。 ・児童たちは担当仔ガメの飼育体験を通して、ウミガメを取り巻く環境問題を身近な問題を学び、その成果を園内施設で発表した。
イベント	【持込イベントの受入れ】第三者が主催する持ち込みの行催事等については、必要な調整を行い受け入れる。	－	名桜大学と名護市のコーヒー園による沖縄県産のコーヒー認知度向上及び地域活性化を図る。	3月18日（土）～19日（日）の2日間 ・来店数　約2,500組	－	－	・新型コロナウイルス感染防止対策を講じたうえで、良好に実施できている。
	【オンラインイベント（aini）】 コロナ禍で来館が困難となった全国の子どもたちに、より質の高い学びの場を提供する。 また、沖縄美ら海水族館の研究や保全活動を紹介し、今後の活動への理解の促進を図る。	R3.5.3～R4.3.13 開催数：39回 参加数：3,077組	【来場困難者へのプログラムの開発と実施】 コロナ禍に即した非接触型の事業を推進し、オンラインイベント（aini）などの事業展開を図る。	R5.2.3～R5.3.12 開催数：4回 参加数：62組	10%	－	・良好に実施できている。 ・引き続きオンラインを活用したイベントを実施し、国内・国外へ沖縄美ら海水族館の魅力を発信する必要がある。
	【MICE等の受入れ】 営業時間外に黒潮の海大水槽前等をMICE等の会場として提供し、利用促進及び満足度向上を図る。	－	MICEの受入れやウェディング事業を実施することで、水族館の利用促進及び魅力向上に努める。	R4.2.1～R5.3.31の通常期営業日 開催数：3回 参加数：164名	－	－	・新型コロナウイルス感染防止対策を講じたうえで、良好に実施できている。

(8) 飲食・売店営業

1) 飲食施設等

事業計画	実施主体（該当者に○印）		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	（事業報告書）	（現地確認）		
①地域特産品や沖縄の食材を活かした沖縄らしいメニューを中心に料理・デザート・ドリンク等を提供 ②食のバリアフリーとしてメニューの多言語表記、写真によるビジュアル化、主な原材料のピクトグラム表示等の情報提供 ③オリジナルメニューの開発・提供 ④安全衛生管理の徹底 ⑤利用者満足度の向上への取組み	○		①地域特産品や沖縄の食材を活かした沖縄らしいメニューを中心に料理・デザート・ドリンク等を提供した。 ②食のバリアフリーとして、メニューの多言語表記、写真によるビジュアル化、主な原材料のピクトグラム表示を行い、ベジタリアン・ハラール・食物アレルギーに係る情報提供を行った。 ③地元本部町のブランド豚肉「本部町産あぐ～」を使用した「あぐ～カツカレー」、本部町産シークヮーサーを使用した「美ら島シークヮーサーソフトクリーム」、ジンベエザメ、マンタなどを水面にデザインした「ラテアートコーヒー」等を提供した。 ④安全衛生管理計画に基づき、法定点検の実施と自主点検として、冷蔵・冷凍庫の温度管理、賞味期限等管理、衛生点検、身だしなみチェックを実施した。食品衛生管理マニュアル、異物混入防止対応マニュアル、食物アレルギー対応マニュアル等に基づき、安全衛生管理に努めた。 ⑤調理師、販売士、サービス接遇実務検定、サービス介助士などの有資格者を配置した。すべての飲食店舗において、クレジットカード、電子マネー、モバイル決済等のキャッシュレスサービスを提供した。	・①～④については、月報、現地にて状況を目視確認した。 ・⑤については、月報、業務日報、衛星点検表を確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、各店舗の利用状況に応じた適正な人員配置を行い、収益の確保に努めている。（レストランイノー、カフェオーシャンブルーは沖縄県感染防止対策認証店に認定） ・今後も収益を確保できるよう販売価格（市場価格並み）や利益率に考慮しながら、より魅力あるサービスとメニューの提供に取組む必要がある。

2) 物販施設等

事業計画	実施主体（該当者に○印）		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	（事業報告書）	（現地確認）		
①ジンベエザメ・マンタ・イルカ等の展示生物に因んだオリジナル商品、本施設の展示物や研究成果を活かしたミュージアムグッズを開発、販売 ②オリジナル商品の開発・販売 ③安全衛生管理の徹底 ④利用者満足度の向上への取組み	○		①ジンベエザメ・マンタ・イルカ等の展示生物に因んだオリジナル商品（ぬいぐるみ、玩具など）や展示生物の細かな特徴を表現したミュージアムグッズを開発し販売した。オキちゃんショップでは特色に合わせ、イルカ、マナティー、ウミガメに因んだ商品を重点に展開した。 ②地元企業との連携により、オリジナル商品「ちゅらうみサイダー」の製造、販売や総合研究センター研究員が執筆した書籍など、学習要素の高いグッズを開発し販売した。 ③安全衛生管理計画に基づき、法定点検の実施と自主点検として、賞味期限等管理、身だしなみチェックを実施した。物販店舗における商品管理マニュアルに基づき、安全衛生管理に努めた。 ④販売士、サービス接遇実務検定、サービス介助士などの有資格者を配置した。多客時には、店舗運営の応援として事務所から人員を配置した。すべての物販店舗において、クレジットカード、電子マネー、モバイル決済等のキャッシュレスサービスを提供した。	・月報、ヒアリング、現地等で確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、各店舗の利用状況に応じた適正な人員配置を行い、収益の確保に努めている。 ・今後も収益を確保できるよう販売価格（市場価格並み）や利益率に考慮しながら、より魅力あるサービスと商品の販売に取組む必要がある。

3)自動販売機及びコインロッカー等

事業計画	実施主体（該当者に○印）		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	（事業報告書）	（現地確認）		
①施設利用者の利便性と公園内の景観に考慮し、適切な場所を選定、利用実態にあわせた台数を設置 ②オリジナル性・話題性のある商品や機材を選定し、ニーズに合わせた商品を適時入替えながら販売 ③大規模災害時に飲料の無償提供が可能な災害ベンダー機能搭載自動販売機を設置 ④安全衛生管理の徹底	○	○	①施設利用者の利便性と公園内の景観に考慮し、自動販売機40台、コインロッカー24口を設置した。 ②オリジナル性、話題性のある自動販売機として、ちゅらうみサイダー専用2台、焼き芋専用1台を設置した。 ③大規模災害時に飲料の無償提供が可能な災害ベンダー機能搭載自動販売機を26台設置した。 ④自動販売機及びコインロッカーは、水平となるよう設置し、アンカー等による転倒防止策を講じた。自動販売機運営マニュアルに基づき、安全衛生管理に努めた。	・月報、日報、販売記録、ヒアリング等により状況を確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・自動販売機及びコインロッカーは、利用者が安全かつ快適に利用できるよう安全面、衛生面、機能面及び景観に留意しながら、設置、運営を行い、収益の確保に努めている。

4)記念写真の撮影販売

事業計画	実施主体（該当者に○印）		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	（事業報告書）	（現地確認）		
①美ら海プラザでは展示生物をモチーフとした模型セットで、オキちゃん劇場周辺では展示生物（イルカ等）との記念写真撮影を行い、販売 ②安全衛生管理の徹底	○	○	①美ら海プラザでは展示生物をモチーフとした模型セットで、オキちゃん劇場周辺では展示生物（イルカ等）との記念写真撮影を行い、オリジナル台紙付又はキーホルダーと合わせて商品化し、販売した。 ②多客時には撮影場所の混雑状況に応じて利用者の整理誘導を行った。	・月報、日報(売上日計綴り)、ヒアリング等により確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、美ら海プラザ内及びおきちゃん劇場周辺で記念写真撮影、販売を行い、収益の確保に努めている。

5)オンラインショップ（ECサイト）の運営

事業計画	実施主体（該当者に○印）		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	（事業報告書）	（現地確認）		
①沖縄美ら海水族館公式オンラインショップ（ECサイト）を運営し、水族館オリジナル商品の購入機会を提供 ②安全衛生管理の徹底	○		①沖縄美ら海水族館公式オンラインショップ（ECサイト）において、水族館オリジナル商品（ぬいぐるみ、衣類、ちゅらうみサイダー等）を中心に販売を行った。海獣課と連携しながらイルカ、マナティーの体験プログラムチケットを販売した。 ②物販店舗における商品の衛生管理マニュアルに基づき、安全衛生管理に努めた。	・月報、ヒアリング等により確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・沖縄美ら海水族館公式オンラインショップ（ECサイト）を運営し、国内外の水族館ファンに対して水族館オリジナル商品を買うことができる機会を提供するとともに、イルカ、マナティーの体験プログラムチケットの販売を行い、収益の確保に努めている。

6)環境への配慮、SDGsに関する取組み

事業計画	実施主体（該当者に○印）		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	（事業報告書）	（現地確認）		
①天然素材の商品袋・容器・ストロー等、脱プラスチック製品への切り替えを推進 ②地域食材を活用した商品開発による地産地消 ③食材や提供する料理の個食セット化による食品廃棄ロスの減 ④食品残渣の堆肥化による再利用の推進	○		①物販施設では天然素材（紙製）の商品袋を導入済み。雨天時に使用しているプラスチック製商品袋についても生分解性素材への切替えに向け調査し、準備を進めた。飲食施設では、全ての容器、ストローについて、紙製又は生分解性製品に切替えを完了した。 ②本部町産食材（野菜等）をレストランイノーランチビュッフェに取り入れるなど地産地消を推進した。 ③飲食施設では、食材や料理の個食セット化又はレトルト化を推進し、食品廃棄ロスの減と調理業務の効率化に取組んだ。 ④飲食施設から排出される使用済み食用油は、廃棄せず、廃食用油リサイクル業者に回収してもらい再利用を推進した。 また、食品残渣の堆肥化は、堆肥化機器や費用などを調査し、導入に向け準備を進めた。	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・引き続き、天然素材の商品袋・容器・ストロー等、脱プラスチック製品への切替えを推進、地域食材を活用した商品開発による地産地消、食材や提供する料理の個食セット化、レトルト化による食品廃棄ロスの減、食品残渣の堆肥化による再利用の推進に取組む必要がある。

(9)広報・誘客

事業計画	実施主体（該当者に○印）		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	（事業報告書）	（現地確認）		
本施設の利用を促進するため、本施設の魅力度アップ・積極的広報宣伝活動、来場者の利便性の向上、混雑緩和・施設利用平準化に取り組む。また、沖縄県・OCVB・北部自治体・旅行業者・観光事業者等と連携し、利用促進策の企画を行う。	○		・コロナ禍で来場困難者に向けたプログラムとして、オンラインツアーを2回、オンライン修学旅行を1回実施した。 ・美ら海アプリ「かざすAI図鑑」でスマートフォンのカメラをかざすことで展示生物の名前や特徴が表示できるサービスを継続して提供した。 ・ジンベエザメの視覚に関する調査研究の結果を国立遺伝子学研究所と共同でリリース配信を行った。併せて財団HPで掲載を行った。（1件） ・行催事や展示、生物の情報等を、マスコミや観光関連機関あてニュースリリースとして積極的に情報発信を行った。（ニュースリリースの打ち返し1件） ・新聞やラジオ等のメディア広報のほか、水族館HPやSNS(Facebook・YouTube）で生き物の紹介など行ったほか、スマートフォンアプリ「美ら海アプリ」のお知らせ機能(プッシュ通知）を活用しアプリケーション利用者に向け、直接的な告知を行った。 ・水族館を楽しめるよう、YouTubeにて動画配信やライブ配信を行い、国内外へ水族館の宣伝を行った。	・月報、ヒアリングにより確認した。 ・HP,SNS(Facebook、YouTube)で生き物の様子を配信したことを確認した。 ・アプリの運用状況を確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・SNSやインターネットを活用した告知を積極的に実施しており、「オンラインイベント」の実施により、子供向けの学習コンテンツを提供している。 ・引き続き、沖縄県や県内企業が実施するキャンペーンへ参画し、沖縄観光活性化に繋がる施策を実施する必要がある。

			・「OKINAWA BLUE POWER」や「そらとぶピカチュウプロジェクト」へ参画し、コロナ禍における沖縄観光の活性化に繋がる施策を実施した。 HPアクセス数:2,518,777件 美ら海アプリインストール数:12,867人増加　計126,658人 YouTubeチャンネル登録数:55人増加　計14,715人 視聴回数:50,400回　計1,308,202回 ・誘客促進を目的に、県内の老人会や婦人会への訪問。催事情報などを掲載したチラシを各月500部配布した。 ・本部町が実施する町内周遊バスに協力し情報発信を行った。			

(10) 受付・接客

事業計画	実施主体(該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
多様なサービスの提供・子供や障害者等の弱者及び外国人を含めたすべての利用者が快適に楽しめるよう施設や接客など、教育を受けた案内員を配置し、接客にあたる。	○		・従業員ガイドブックを携帯し、海洋博公園の多施設及びプログラム案内・料金・利用時間等の基本情報の問合せに対応した。 ・外国人からの電話・メール等での問い合わせに対し、英語の他、多言語での対応を行った。 ・スタッフミーティングを実施し、団体予約状況の確認及び繁忙時に備えスタッフの配置を強化する等、お客様に対する満足度の向上に努めた。 ・P7立体駐車場においてベビーカー・車いすの無料貸出を行った。 ・多言語対応として ①多言語パンフレットの設置 ②多言語での館内案内表示 ③タブレット等での多言語通訳サービスの利用を行った。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、音声ガイドの貸出は中止とした。また、ベビーカー・車いすは台数を制限して貸出した。	・ヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

(11) 情報管理

事業計画	実施主体(該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
法令や財団が定める個人情報・特定個人情報取扱規程等に基づき、業務上知り得た個人情報は適切に管理するものとする。	○		・各種関連法令や当財団の個人情報・特定個人情報取扱規程を遵守した。各種申請書やアンケート、名簿など、鍵付き書庫での保管や、担当者以外ではアクセスできないよう、データ管理を適正に行った。	・ヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・昨今多発しているサイバー攻撃によるリスクに備えるため、サイバー保険への加入を検討する必要がある。

3. 自主事業（地域還元事業・公園関連事業）

事業計画	実施主体（該当者に○印）		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	（事業報告書）	（現地確認）		
・地域還元事業 【継続】 海洋博公園　美ら海花まつり 県内の「花のカーニバル」と連携し、公園の利用促進、沖縄観光への寄与、地域団体による壁面花装飾等誘客促進を目的に実施される本イベントに国営公園管理業務受託者と連携して協力する。	○		・令和5年1月21日から開催し、「H30-34国営沖縄記念公園運営維持管理業務」契約期間満了となる1月31日（火）で一旦業務終了とし、「R4-8国営沖縄記念公園運営維持管理業務」契約期間となる2月1日（水）～3月31 日（金）の期間、継続実施した。 ・2/1～3/31の期間は、589,508名の入園者があった。 ・地域のボランティア3団体や学童児童の1団体と連携し、壁面装飾の展示。さらに、都市公園制度制定150周年記念事業の一環として国営公園管理業務受託者と調整し実施した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・中央噴水広場では、草花を随時入れ替えることで、長期の展示でも常に花を楽しめるようにした。熱帯ドリームセンターエントランスには、ブーゲンビレアの鉢物展示や入口前ロータリーには、大規模花壇を演出することで、長期の展示でも常に見頃の花を楽しめるようにした。 ・首里城公園と連携したPRを実施した。今後も相互に連携したPRを図ることで、冬期の花のイベントの振興に努める必要がある。
・地域還元事業 【継続】 フラワーロードの設置 水族館・海洋博公園の周辺地域の道路に造形花壇等を設置し、周辺地域の美観向上、公園利用者の満足度向上に寄与する。	○	○	・海洋博公園周辺地域の美観向上、公園利用者の満足度向上に寄与することを目的に、水族館・海洋博公園の周辺地域の道路に設置された立体造形花壇の維持管理を行った。 ・立体造形花壇の維持管理として、草花の入れ替えと灌水作業を行い、灌水作業の一部は、「R4-9 海洋博公園周辺道路環境美化整備業務」の一環として、本部町観光協会が実施した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
・地域還元事業 【継続】 移動水族館の実施 沖縄県内地域のまつりやイベント等で、依頼を受けての移動水族館（有料）を開催し、展示生物や沖縄の海に関する解説、プラごみ問題等の環境保全に係る解説も併せて実施し普及啓発を行う。	○		・新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、県内団体からの依頼を受けて実施。次年度に向けた問い合わせの増加傾向が認められた（1件916名）	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・引き続き感染状況を見ながら実施時期や内容を調整し、開催実現にむけて各団体と調整を進める必要がある。
・地域還元事業 【継続】 県外・国外におけるプロモーション 県外及び国外主要都市におけるプロモーション事業や、航空会社等との連携事業を、沖縄県、OCVBと連携して行うため、関係各所と調整を行う。	○		・次年度の県外・国外におけるプロモーションについてOCVBと調整を行った。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・引き続き関係機関と調整を行い、次年度のプロモーションについて円滑に実施できるよう努める必要がある。
・地域還元事業 【継続】 やんばる旅ナビ（WEBサイト）の運営 沖縄北部観光支援ナビゲーションサイト「やんばる旅ナビ」を運営し、沖縄本島北部「やんばる」の魅力的な観光情報などを発信し、やんばる地域の観光振興に寄与する。	○		・やんばる旅なびにて、周遊プランの提案を行うとともに各地域のイベント情報を発信しやんばるエリアの利用促進を図った。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・引き続き各地域のイベント情報発信し、やんばるエリアの利用促進に努める。

・地域還元事業 【継続】 公園施設との連携 熱帯ドリームセンターの入館者のうち、水族館の年間パスポートの掲示またはセット券を利用した入館者については半額免除とし、免除額は水族館経費で負担することで、公園施設の利用促進に寄与する。	○		・令和5年2/1～3/31の期間中、年間パスポート提示による半額免除利用者は654名であった。この期間においてセット券の利用者は無かった。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・年間パスポートだけでなく、旅行商品の要望に応じたセット券での販売や受入れ等の利用促進に努める必要がある。
・地域還元事業 【継続】 市民参加型調査 地域・NPO団体等からの情報提供を受け、地域の生物相調査を実施し、その成果は各種講座の開催やホームページ への掲載等により共有する。	○		・沖縄アミークスインターナショナル(うるま市)敷地内において同校の生徒らとともにイボイモリの生息状況調査を、令和5年3月に2回実施した。その他次年度に向けて準備を進めている。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・有用な情報の取得や地域との共同調査として発展するため、引き続き積極的な市民・地域との関わりを構築する必要がある。
・地域還元事業 【継続】 環境保全活動の支援 沖縄本島及び周辺離島におけるビーチクリーンや赤土流出防止等の環境保全活動参加者へ水族館の入場券と引き換え可能な「エコクーポン」を提供。	○		・今年度の受付は終了しており、次年度に向けての準備を進めている。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・今後は赤土流出防止のためのグリーンベルト植栽活動や河川の清掃等多方面からの保全活動にも拡充するよう、周知を図る必要がある。
・地域還元事業 【継続】 地域民泊家庭との連携 民泊利用者に対し、地域の動植物に関する解説・体験学習を実施。	○		・美ら島自然学校において民泊利用者1件36名に対し、ウミガメを中心とした地域の動物の話や自然学校の活動について解説した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・県外学生を対象に、沖縄また地域の自然環境や文化について啓発できる機会のため、今後も継続して受入れていく必要がある。
・地域還元事業 【継続】 指導者育成講座 沖縄の動植物、環境、海洋文化等、多分野の最新知見に関する講座を開催し、県内事業者のスキルアップを支援。	○		・今年度の活動は終了。次年度に向けての準備を進めている。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・天候不良により中止となることもあったため、予備日を設定するなど、参加機会を維持できるよう努める必要がある。
・地域還元事業 【継続】 ビーチクリーン活動 地域の方々と共に地域海岸等でゴミ拾いを実施。人工物が海洋生物にもたらす影響やマイクロプラスチック等の問題について職員が解説。	○		・今年度の活動は終了。次年度に向けての準備を進めている。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・次年度も引き続き、地域と連携しながら、地域の海岸保全に努め、エコクーポン事業も併せて推進する必要がある。

公園関連事業 【継続】 熱帯・亜熱帯植物の収集および栽培に関する調査研究	○		・熱帯植物試験圃場（公園外の当財団独自の圃場）で育成管理した沖縄の季節の花（ヒメサザンカ、ケラマツツジ、カクチョウラン）、パピリオナンセを熱帯ドリームセンターに展示することで満足度向上を図った。 ・沖縄郷土村では、地元の小学生を対象に本部町在来ネギ‘もとぶ香ネギ’の収穫体験・調査・展示を行った。島野菜（ニガナ等）を栽培展示し、沖縄の生活文化への関心を高めることができ満足度向上に繋げた。 ・熱帯・亜熱帯都市緑化植物園でメーオーパの栽培体験を実施した。 ・公園内の動物性残渣及び植物性廃棄物を用いて独自に開発した有機堆肥を使用した栽培試験において、花壇材料のマリーゴールドでは化学肥料を施用した場合と比較して葉色が改善することに加え、開花数も有意に増加することが示され、SDGsに関する取組みに活用できると期待された。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・各項目において、計画通りに調査研究、研究成果の活用などができている。
公園関連事業 【継続】 公園の植物管理技術に関する調査研究	○		・外来植物（ギンネム）防除について、海洋博公園での実用化を目指し、薬剤メーカーと連携し防除効果が見られた薬剤の適用拡大申請を行った。 ・南根腐病について、海洋博公園内での調査データを用い、新宿主を記載し、南根腐病の感染経路に関する論文を森林総研等との共同研究（主著）により学術論文（Forest pathology誌）に掲載した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
公園関連事業 【継続】 蜜源植物に関する調査研究および普及啓発	○		・海洋博公園内の飼育群から女王を確保し、新規女王による飼育群の増加技術の向上のため2郡を公園外にて維持していたが、1群の蜂数が減少したため、一つの巣箱に合同した。また、養蜂作業の効率化のため公園内へ移動行った。巣箱の移動は、働き蜂の習性、巣箱内外の環境変化への考慮が必要なため、これまで実施していなかった。今回は移動、移動場所での定着まで確実に実施することができた。 ・春期のハチミツ採取に向けて蜂数は順調に増加し、これまでにないほど拡大している。そのため、巣箱を拡張する継箱や巣枠等の資材が不足し始めているので、今後対応していきたい。 ・環境教育プログラムについて、訪花植物を中心に学ぶ「植物園で蜜源植物をさがそう！」を検討している。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
公園関連事業 【継続】 緑化関係事業への協力	○		・「第50回沖縄県蘭協会展示会」への協賛・審査員派遣、第39回「中部広域グリーンフェスタ」大植木市への後援などを行い、公園の行催事及び管理技術向上への協力体制を築いた。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

公園関連事業 【継続】 国際ラン展等への参加および熱帯果樹・花卉類等の調査	○		・令和5年03月に「台湾国際蘭展2023」への参加と緑化手法等調査のため台湾台南市に出張した。同蘭展は、世界蘭展と東京蘭展（東京ドーム蘭展）とならび世界三大蘭展と称される最大級の蘭展であり、19回目の開催となる。当財団は、コロナ禍の影響で3年ぶりの参加となった（2020-2021は中断）。各国からの参加者（日本、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、アメリカ、ドイツ等）と交流を行い蘭等に関する情報交換を行った。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
公園関連事業 【継続】 新しい園芸植物の開発および展示に関する調査	○		・沖縄国際洋蘭博覧会で展示したジュエルオーキッドの一部を仕立て直し、培養容器内で長期間ローメンテナンスで展示できる手法にて展示を行った。 ・ダイサギソウを用いた交配種の育成を引き続き実施し、次回の展示に向け仕立てを行った。 ・沖縄在来のコウトウシュウカイドウを用いた園芸品種について、路地植栽株を開花させるに至った。近縁の観葉ベゴニアの抱える問題（花が葉の下に咲く）を克服し、花に観賞価値を持たせることに成功した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
公園関連事業 【継続】 琉球列島産希少植物の保護保全および増殖技術に関する調査研究	○		・植物園協会誌第57号にて、エダウチヤガラの野外播種試験に関する論文が公表されるに至った（2月）。エダウチヤガラについて、培養条件下における種子発芽条件の検討を引き続き行った。 ・次年度以降の超低温保存試験の実施に向け、機材の準備と計画策定を行った。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
公園関連事業 【継続】 植物標本等の管理および有効活用	○		・新規の維管束植物標本の採集・整理を引き続き実施し、押し葉標本貼付を行った上で、固有番号付与、画像撮影、データ整理を行った（約300枚）。 ・整理済み標本の再配列と属カバーへの収納も継続し、害虫防除のため定期的に冷凍を行った。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・今後は、公園施設での展示活用など積極的に行っていく必要がある。

公園関連事業 【継続】 沖縄の島野菜および伝統作物に関する調査研究	○		・メーオーパについて、聞き取り調査および資源探索対象地域を検討した。また、収穫後の乾燥処理および採種を逐次進めている。 ・ラッキョウについて、収集系統の維持管理および次年度に向けた圃場整備を進めている。 ・収集した在来ゴーヤをはじめ収集した種子の一部を真空パック処理を行い、圃場試験用に冷蔵保存を行っている。 ・もとぶ香ネギについて、公園内における普及活動で用いる苗をセルトレイで養生中。また圃場試験に向け、圃場整備を行っている。 ・宮古島系統チョマ(繊維植物)について、次年度の調査研究として肥培試験を計画し、苗の状態を揃えるため、地上部の刈り取りを行った。また圃場試験に向け、圃場整備を行っている。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
公園関連事業 【継続】 海洋文化館の資料に関する調査研究 ・海洋文化館の展示資料の劣化防止を目的に、海洋文化資料(オセアニア・沖縄等)の管理保存に関する調査を行う。 海洋文化館の環境調査ならびに展示・収蔵品の保存状態調査を実施する。また、その成果を、関係部署間で共有し、資料の適切な管理保存に活用する。	○		・海洋文化館展示ホールの温湿度のモニターを継続した。そのなかで、2月下旬に好天気が続いた際に特に温度が大きく上昇したため、2月21日に現場の状況および資料の状態について確認した。 ・また、令和5年度に防虫処理を実施するために従前の展示場所より屋外収蔵庫前庭に移動したサバニ3隻について、2月22日に企画運営課職員と共同で状態を確認するとともに、防水カバーを取り付けなおしたほか、保管状況の改善を行った。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・関係各部署との協力関係を維持・強化するとともに、資料の状態について調査し、即応できるようにする必要がある。また、海洋文化館の屋内のみならず周辺の環境についても調査体制を確立し、対応できる体制を構築する必要がある。
公園関連事業 【継続】 やんばる環境学習(学校・一般) ・海洋博公園を活用した普及活動を行い公園の利用促進を図ることを目的に、北部地域の学校団体や一般団体と連携し、公園や地域の自然環境を活用した授業や講習会を実施する。 学校団体向けとして海洋博公園の文化施設・自然環境を活用した授業を北部地域小中学校の年間授業に組み込んで実施する。また、一般団体向けとして公園管理業務や調査研究により得た成果やノウハウを基に、公園内の自然環境・各施設を活用した講座を実施する。	○		・海洋博公園の施設を活用した授業は、上本部学園4年生(計1回)を対象に、令和4年10月におきなわ郷土村で植え付けしたもとぶ香りネギの最終の計測と収穫を令和5年2月下旬に実施した。収穫したネギは学校において調理実習でヒラヤーチーや卵焼きの材料として使用した。 ・また、地域の自然環境を活用した瀬底小学校5-6年生のサンゴ観察に関するまとめおよび飼育下サンゴとの比較のために、水族館のバックヤード施設の見学を行った。 県内小中高等からの依頼により出前授業(1件158名)を実施した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・今後、もとぶ香ねぎの成長度合いの調査には、照度計を用いた照度調査など、児童でも参加できる取り組みを増やす必要がある。同様に、授業の一環としてサンゴ観察や周辺環境の観察なども、児童が参加しやすい形で継続を図る必要がある。

公園関連事業 【継続】 外部団体からの協力依頼 各種講習会展示会等の開催 ・海洋博公園の管理運営で培った亜熱帯性動植物、沖縄の海洋文化等の普及啓発を目的に、一般市民(大人・子供)・学生・専門家等を対象とした講習会の開催や講演依頼に対応する。 講義テーマと公園内施設のつながりが分かるように講座を行う。受講者たちの公園への関心を高め、公園へのリピーター確保等につなげる。	○		・沖縄県主催の那覇市で開催された「サイエンステックフェス」および本部町で開催された「サイエンステックキャラバンinもとぶ」にマガキガイや有孔虫といった「身近にいるがあまり知らない生物」を題材にした工作教室を出展した。 ・また、調査研究等で得た知見をもとに亜熱帯性動植物に関する講師派遣(対面・遠隔)を4件実施した。そのうち、2件は海外の学校を対象とした講座を実施した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・今後も国内・国外からの協力依頼には積極的に対応し、海洋博公園への興味関心の向上や誘客へ繋げるよう努める必要がある。
自主展示会の実施 ・沖縄県立博物館・美術館との連携により、所有標本やパネル等を用いた自主企画展を開催する。 3/4－19の日程で、世界自然遺産展を開催する。	○		・令和5年3月4日(土)～3月19日(日)、沖縄県立博物館・美術館(おきみゅー)において、沖縄島北部をはじめとした世界自然遺産推進企業体の活動などを紹介することを目的に「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島　世界自然遺産展」を開催したところ、のべ2,474名が来場した。また、関連して行われた講演会には89名が来場した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	良好に実施できている。
公園関連事業 【継続】 琉球弧における造船・航海等に関する調査・普及 ・海洋文化館の利用促進や公園内での普及啓発活動実施を目的に、琉球弧における造船・航海等に関する調査・普及活動を行う。加えて、沖縄県内の造船・操船技術者等と協働で調査普及事業を行い、海洋博公園を拠点とした愛好者ネットワークを構築する。 R4年度までの調査成果をもとに、琉球弧における造船・航海等の情報交換及び造船技術継承に向けた各種調査を実施する。	○		・令和2年度に新造し、令和3年度より海洋文化館において展示中の奥武島の漁撈用サバニについて、関係各所と調整して、令和9年1月31日まで引き続き展示できるようにした。 ・また、令和5年2月7～8日には奄美大島を訪問し、奄美市住用町にある原野農芸博物館所蔵の丸木舟の保管状況ならびに展示計画について情報提供を受けたほか、同市立奄美博物館の歴史・民俗担当学芸員と伝統的造船技術の継承状況について情報交換をしたうえで、同市在住の船大工、坪山良一氏が建造した伝統的木造船・アイノコの進水式に参加し、写真・映像の撮影ならびに建造技術に関する聞き取り調査を行った。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・奥武島で建造したサバニを海洋文化館で展示するだけでなく、サバニに関する調査研究成果を被調査団体などと共有する形で開示でき、伝統技術・文化の活用と維持に役立てることができている。また、調査範囲を沖縄本島外にまで広げ、研究の事例数を充実させつつある。 ・今後は、これまで築いた地元とのパイプを維持するとともに、その調査・研究の成果を海洋文化館等での講座などに活用して、広く一般に還元するスキームを確立する必要がある。。

※「事業計画」欄は、当初の年間事業計画を記載するものとし、変更した場合には変更後の内容も記載すること。

※「現状分析・課題」欄は具体的に記入すること。

2. 運営業務 3. 自主事業 取組改善案	・施設の効率的な運営と収益確保のため、通常期・繁忙期の時期見直しが行われており、今後も随時見直しを行っていく必要がある。 ・イベント・プログラムは、感染症防止対策を講じながら、概ね良好に実施できている。 ・オンラインイベントや対面でのイベントの充実を図ることで、水族館の魅力を発信し、より質の高い学びの場を提供することで誘客促進および満足度向上に取り組む必要がある。

※「2. 運営業務」「3. 自主事業」の各項目の「現状分析・課題」等を踏まえて、現年度(R5年度)の主な取組改善案を記入すること。

Ⅱ．サービスの質の評価

アンケート実施方法	WEBによるアンケート	回答者数	308	アンケート内容	別紙参照

評価項目		第三者(利用者等)評価				指定管理者自己評価	現状分析・課題
		令和3年度評価	令和4年度目標	令和4年度評価			
維持管理業務	施設・設備管理(建物管理・清掃・植物管理)	S (99.3%)	90.0%	【施設の芝生・草花や植栽の手入れについて】 ＜満足度＞99.6% ・満足56.2% ・どちらかというと満足15.3% ・どちらかというと不満0% ・不満0.3% ・利用していない1.6% ・無回答26.6% 【建物・設備の管理、衛生・清掃状態について】 ＜満足度＞98.2% ・満足52.3% ・どちらかというと満足19.2% ・どちらかというと不満0.6% ・不満0.6% ・利用していない0.3% ・無回答26.9%	S (98.9%)	(要望への対応) 特になし (自己評価) 業務計画に基づく植物管理を適正に行ったほか、水族館周辺で設置・花の入れ替え等維持管理している海の生き物の立体造形花壇等について、園路導線上に設置することで、色鮮やかな花修景を創出し、水族館利用者の期待感を高める演出を行った。	・良好に実施できている。 ・引き続き適切な維持管理を行い、利用者の満足度向上に努める必要がある。
				〈改善要望〉 特になし			
	施設・設備管理(水族館の展示内容)	S (92.7%)	90.0%	【生き物の展示について】 ＜満足度＞98.3% ・満足61.4% ・どちらかというと満足15.9% ・どちらかというと不満1.3% ・不満0% ・利用していない1.0% ・無回答20.5% 【水族館内のショーや解説について】 ＜満足度＞99.0% ・満足49.7% ・どちらかというと満足15.6% ・どちらかというと不満0.3% ・不満0.3% ・利用していない10.7% ・無回答23.4% 【オキちゃん劇場等のショーについて】 ＜満足度＞98.7% ・満足40.3% ・どちらかというと満足6.8% ・どちらかというと不満0.6% ・不満0% ・利用していない27.3% ・無回答25.0%	S (98.7%)	(要望への対応) 特になし (自己評価) ジンベエザメやナンヨウマンタ、世界唯一となるヒメイトマキエイやオニイトマキエイなどの大型希少板鰓類、世界唯一の人工子宮装置で育成中の深海ザメ胎仔の展示を行った。 海獣施設においても、国内唯一の展示種であるミナミバンドウイルカやシワハイルカ、ウミガメ類、アメリカマナティーの飼育展示を行った。 また、1才になるアメリカマナティーやオキゴンドウ、0才のバンドウイルカの繁殖個体の展示を行った。	・良好に実施できている。 ・引き続き新規展示に取り組み、満足度向上に努める必要がある。
				〈改善要望〉 特になし			
運営業務	接客対応	S (97.8%)	90.0%	【スタッフの対応について】 ＜満足度＞97.7% ・満足50.0% ・どちらかというと満足18.5% ・どちらかというと不満0.6% ・不満1.0% ・利用していない0% ・無回答29.9%	S (97.7%)	(要望への対応) 特になし (自己評価) 多様なニーズにこたえられるよう、スタッフの技術・資質の向上に取り組んだ。	・状況に合わせた新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら、より満足度の向上に努める必要がある。
				〈改善要望〉 特になし			

	施設・設備（売店、スナック、レストラン等）	S （96.2%）	90.0%	【カフェ・レストランについて】 ＜満足度＞96.3% ・満足16.2% ・どちらかというと満足9.1% ・どちらかというと不満1.0% ・不満0% ・利用していない46.4% ・無回答27.3% 【ショップ・売店について】 ＜満足度＞94.3% ・満足35.1% ・どちらかというと満足18.5% ・どちらかというと不満2.6% ・不満0.6% ・利用していない15.6% ・無回答27.6% 〈改善要望〉 特になし	S （95.3%）	（要望への対応） 特になし （自己評価） 引き続き新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、地元特産品を活用したメニューの提供、オリジナル商品の販売、キャッシュレスサービスなど提供することで満足度向上に努めた。	・満足度向上に向け、販売価格や利益率に考慮しながら、より魅力あるメニューの提供やオリジナル商品の販売に取組む必要がある。
	教室・プログラム	S （100%）	90.0%	【美ら海オトナ塾2月「亜熱帯の森に棲むいきもの」】 ＜満足度＞100% ・満足100% 【美ら海オトナ塾3月「黒潮の海大水槽の20年」】 ＜満足度＞92% ・満足50% ・やや満足42% ・普通8% 〈改善要望〉 特になし	S （96.0%）	（要望への対応） 特になし （自己評価） 18歳以上の大人を対象とした年パス会員イベントを開催し、海洋生物の知識の普及や調査研究成果を発信した。 このイベントでは、沖縄の森に生息する希少生物の生態や、開館から20年かけて確認できた大水槽飼育生物の成長などにフォーカスした講演を行った。	・新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組んだ上で、良好に実施できた。 ・今年度は対面・オンラインによるハイブリット開催としたことで、遠隔地からの参加も得られた（対面22名、オンライン10名）。 ・今後の実施に際し、オンライン参加者へのサービス向上のため配信環境を改善する必要がある。
総合評価 （各評価項目の平均）		S （96.3%）	90.0%	〈満足度〉 満足97.8%	評価 （②満足度） S	今後も適切な維持管理・運営業務に努める。	・来園者のニーズを継続的に収集し、施設の管理運営に活かすことで満足度の向上に努める必要がある。

※評価項目については、施設の態様に応じて適宜設定すること。
※「現状分析・課題」欄は具体的に記入すること。

※満足度とは、指定管理者が提供するサービスに対する利用者の満足度のことをいうものとし、回答選択肢のうち、中位を超える割合により算定するものとする。

【評価基準（②満足度）】
総合評価においては各評価項目の満足度の平均
各評価項目においてはそれぞれの満足度
S：90%以上
A：80%以上、90%未満
B：70%以上、80%未満

Ⅱ．サービスの質の評価 取組改善案	・県の対処方針に基づき、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら、満足度の向上に努め、維持管理業務（建物管理・清掃・植物管理・水族館の展示内容）および運営業務（接客対応、売店・スナック・レストラン等、教室プログラム）で各評価項目においてそれぞれの満足度は90%以上となり概ね良好に実施できている。 ・継続的に高評価が得られるよう、引き続き、適切な管理、新規展示などに取り組むとともに、研修等を実施し満足度向上に努める必要がある。

※「Ⅱ．サービスの質の確認・評価」の各項目の「現状分析・課題」等を踏まえて、現年度（R5年度）の主な取組改善案を記入すること。

Ⅲ. 財務状況の確認・評価

1. 収支

(1) 収入

収入項目		令和3年度 実績(年間)	事業計画	令和4年度 実績(2ヶ月)	前年比 (%)	対計画比 (%)	特記事項
利用料金収入	入場料収入	806,898,430	530,905,000	763,773,320	94.7%	143.9%	・収入増の要因：10月からの全国旅行支援等で入域観光客が大幅に増加し、それに伴い入館者数が計画に比べて大幅に増加。 ・入館者数増の要因：全国旅行支援の実施によって、個人旅行の増、修学旅行が回復。水際対策の緩和による外国人客の増加。
	売店等収入	656,768,935	400,716,000	567,658,495	86.4%	141.7%	・収入増の要因：全国旅行支援事業(おきなわ彩発見NEXT)による店舗利用者と客単価の増。イルカ給餌体験やウミガメ給餌体験、ガチャガチャ(サメの歯)の販売、バックヤードツアーやMICEの実施等。
	計	1,463,667,365	931,621,000	1,331,431,815	91.0%	142.9%	
指定管理料		1,745,840,028	5,307,600	5,307,600	0.3%	100.0%	大規模修繕に係る指定管理料
雑収入	雑収入	177,835,260	50,000	1,786,219	1.0%	3572.4%	彩発見地域共通クーポン差益600千円(クーポンの未使用分の受領)
	計	177,835,260	50,000	1,786,219	1.0%	3572.4%	
合計(A)		3,387,342,653	936,978,600	1,338,525,634	39.5%	142.9%	

〈現状分析・課題〉

・10月からの全国旅行支援等で入域観光客が大幅に増加したことを受けて、入館者数が増加した。また、10月の入館料金の改定(大人料金で300円値上げ)、開館20周年記念商品の投入、全国旅行支援のクーポン利用などにより物販利用者数及び客単価が上昇し、収入が増加した。
・今後も施設の魅力を高め、更なる入館者数を確保し、顧客のニーズを捉えた独自商品を提供できるよう引き続き努力する必要がある。特に、レストランの提供席数増による飲食収入の増加及び需要の高い給餌体験の収入を着実に確保するよう努力する必要がある。

(2) 支出

支出項目		令和3年度 実績(年間)	事業計画	令和4年度 実績(2ヶ月)	前年比 (%)	対計画比 (%)	特記事項(計画比の増減理由)
1	**売上原価**	2,806,917,777	877,397,000	1,011,798,585	36.0%	115.3%	
	＜施設維持管理＞	801,193,598	172,629,000	138,488,982	17.3%	80.2%	
	修繕費	6,463,911	4,524,000	3,131,722	48.4%	69.2%	自然災害の被害を予測して修繕費用を確保していたが、被害が無かったため。
	清掃費	141,653,628	32,611,000	29,994,202	21.2%	92.0%	
	植物管理費	46,063,907	15,770,000	5,738,238	12.5%	36.4%	立体花壇の造形を見直したことによる減
	動物管理費	112,687,706	27,901,000	19,149,911	17.0%	68.6%	低価格資料の導入による削減。生物採集回数の減。
	建物維持管理費	337,417,297	65,261,000	59,675,906	17.7%	91.4%	
	減価償却費	133,079,763	26,562,000	20,799,003	15.6%	78.3%	
	その他	23,827,386	0	0	0.0%	#DIV/0!	(借入金完済のため支払利息の実績なし)
	＜利用者サービス費＞	1,070,415,359	221,083,000	219,028,355	20.5%	99.1%	
	人件費	803,616,999	152,270,000	186,138,980	23.2%	122.2%	案内業務、調餌業務を内製化したことによる増。
	印刷製本費	33,245,170	14,007,000	2,048,864	6.2%	14.6%	入館券の在庫残による発注の見送り。
	利用者サービス費	92,231,320	27,389,000	10,978,220	11.9%	40.1%	案内業務を内製化したことによる削減。
	賃借料	27,873,233	4,711,000	5,242,738	18.8%	111.3%	リースの終了に伴う新規契約等による増。
	委託費	101,385,196	21,080,000	13,178,822	13.0%	62.5%	調餌業務を内製化したことよる削減。
	遊覧車負担金	12,063,441	1,626,000	1,440,731	11.9%	88.6%	計画より園内の電気遊覧車の料金が伸びたことによる負担金(電気遊覧車収支差額)の減。
	＜広告宣伝＞	28,249,634	5,762,000	2,163,143	7.7%	37.5%	収入状況を勘案し、PR事業等を見送ったことによる減。
	＜商品仕入れ＞	331,351,344	201,961,000	297,657,094	89.8%	147.4%	売上増に伴う商品仕入の増。

	＜その他事務費＞	575,707,842	275,962,000	354,461,011	61.6%	128.4%	
	消耗什器備品費	807,510	665,000	518,320	64.2%	77.9%	
	消耗品費	26,805,211	8,268,000	7,776,893	29.0%	94.1%	
	光熱水費	357,651,125	71,692,000	67,858,141	19.0%	94.7%	
	支払手数料	50,537,457	48,418,000	50,242,114	99.4%	103.8%	入館者増に伴うクレジットカード決済手数料、旅行会社への誘客手数料の増。
	租税公課	104,581,566	137,761,000	223,671,617	213.9%	162.4%	売上増による未払い消費税の増。
	その他	35,324,973	9,158,000	4,393,926	12.4%	48.0%	通信運搬費及び車両維持費等の執行減。
2	調　　査　　費	93,469,843	17,434,000	20,193,708	21.6%	115.8%	基本給カット・冬季賞与カットの終了、10月から基本給・時給改定に伴う人件費の増。
3	販売費及び一般管理費	179,961,977	34,080,000	41,765,507	23.2%	122.6%	基本給カット・冬季賞与カットの終了、10月から基本給・時給改定に伴う人件費の増。
4	県への固定納付金	275,297,948	187,388,000	187,388,365	68.1%	100.0%	
	＜土地・施設財産使用料＞	213,297,948	48,051,000	48,051,380	22.5%	100.0%	
	＜大規模修繕費＞	0	129,314,000	129,315,068	#DIV/0!	100.0%	
	＜県職員人件費＞	42,000,000	6,790,000	6,789,041	16.2%	100.0%	
	＜県モニタリング費＞	20,000,000	3,233,000	3,232,876	16.2%	100.0%	
5	大規模修繕費用	152,583,680	5,307,600	5,307,600	3.5%	100.0%	
小計		3,508,231,225	1,121,606,600	1,266,453,765	36.1%	112.9%	
公園関連事業		70,718,968	14,826,000	15,091,509	21.3%	101.8%	
地域還元事業		－	3,281,000	4,013,665	#VALUE!	122.3%	(R3年度の地域還元事業費は各支出項目に計上)
歩合納付金		0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!	
合計(B)		3,578,950,193	1,139,713,600	1,285,558,939	35.9%	112.8%	

〈現状分析・課題〉

・入館者数の増や売店等収入の増に伴って、商品仕入費、支払手数料、未払い消費税等の運営経費は増となった。
・令和2年度以降、時期に合わせた営業時間の随時見直し、低価格飼料の導入等、様々な業務の見直し・効率化の取り組みを継続しており、経費節減につなげている。
・今後は、必要な経費削減の取組は継続しつつ、収入増につながる必要な施策を見極め、効率的な支出を図る必要がある。特に、開館から20年が経過し、これまで抑えてきた修繕費用の増加が見込まれることから、必要な施設維持を適時に行い、顧客満足度を維持することが求められる。

※「事業計画」欄は、当初の年間事業計画を記載するものとし、変更した場合には変更後の内容も記載すること。

※「現状分析・課題」欄は具体的に記入すること。

2. 経営分析指標

評価指標	令和3年度 実績(年間)	事業計画	令和4年度 実績(2ヶ月)	前年比 (%)	計画比 (%)	特記事項
事業収支(C) (収入(A)－支出(B))	△ 191,607,540	△ 202,735,000	52,966,695	27.6%	26.1%	
収益率 (事業収支(C)／収入合計(A))	−5.7%	−21.6%	4.0%	70.0%	18.3%	
利用料金比率 (利用料金収入／収入(A))	43.2%	99.4%	99.5%	230.2%	100.0%	コロナ前水準(H30:99%、H31:98%)に改善。
人件費比率 (人件費／支出(B))	22.5%	13.4%	14.5%	64.5%	108.4%	
外部委託費比率 (外部委託費合計／支出(B))	(855,905,673) 23.9%	－	(126,995,853) 9.9%	41.3%	－	一部の委託業務の内製化により、コロナ前水準(H30:13.1%、H31:17.1%)以下となっている。
利用者あたり管理コスト (支出(B)／利用者数)	620,115人 5,771	279,000人 4,085	477,841人 2,690	77.1% 46.6%	171.3% 65.9%	コロナ前水準(H30:2,158円、H31:2,402円)に改善している。
利用者あたり自治体負担コスト (指定管理料／利用者数)	1,593,256,348 2,569	－	0 0	0% 0.0%	－	

〈現状分析・課題〉

・入域観光客の増に伴う入館者の増及び入館料金の改定により、事業収支及び収益率・利用料金比率は大幅に改善した。
・自治体負担は、管理運営の継続のための応急的な措置であり、今期(令和5年2月～3月)は負担なし。

※「事業計画」欄は、当初の年間事業計画を記載するものとし、変更した場合には変更後の内容も記載すること。

※「現状分析・課題」欄は具体的に記入すること。

評価(③財務状況)	A

【評価基準 (③財務状況) 】
収益率 (事業収支／収入合計)
A： 0%以上
B：−5%以上、0%未満
C：−5%未満

Ⅲ. サービスの安定性評価 (財務状況) 取組改善案	・今後も施設の魅力を高め、更なる入館者数を確保し、顧客のニーズを捉えた独自商品を提供する。特に、レストランの提供席数増による飲食収入の増加及び需要の高い給餌体験の収入を着実に確保する。 ・必要な経費削減の取組は継続しつつ、収入増につながる必要な施策を見極め、効率的な支出を図る。特に、開館から20年が経過し、修繕費用の増加が見込まれることから、必要な施設維持を適時に行い、顧客満足度を維持する。

※「Ⅲ. 財務状況の確認・評価」の各項目の「現状分析・課題」等を踏まえて、現年度(R5年度)の主な取組改善案を記入すること。

【経営分析指標の評価の考え方】

評価指標	計算方法	評価の考え方
事業収支	収入－支出	事業収支がマイナスの場合、継続性の面で課題となるため、県、指定管理者で協力して黒字化のための方策を協議する必要がある。 ※計画や過年度実績に対し変動がある場合には、その要因を整理すること。
収益率	事業収支／収入	計画、過年度実績、類似施設と比較して、安定したものとなっているか、適切な範囲内となっているか確認する。 ※計画や過年度実績に対し変動がある場合には、その要因を整理すること。 ※計画等に対し上昇している場合、必要な変動費が十分に充てられているか確認すること。また、計画等に対し減少している場合、当初の収支見込が適切であったか精査すること。
利用料金比率	利用料金収入／収入	指定管理者の主な収入源がどこにあり、それが安定したものであるのかを確認する。 ※過年度実績に対し増減がある場合には、利用料金そのものの増減によるものか、自主事業等その他収入の増減によるものかなど、その要因を整理すること。
人件費比率	人件費／支出	過年度実績や類似施設と比較して、適切な範囲内となっているか確認する。 ※変動がある場合には、人件費そのものの増減によるものか、その他支出項目の増減によるものか、その要因を整理すること。 ※人件費の減少がある場合には、それにより効率が低下していないかを確認する。また、人件費の増加がある場合には、求められる管理水準に対し必要な措置か確認すること。
外部委託費比率	外部委託費合計／支出	過年度実績や類似施設と比較して、適切な範囲内となっているか確認する。 ※増減がある場合には、外部委託の範囲が仕様書等に定める適切な範囲内となっているか、外部委託の活用が業務の効率化に繋がっているか確認する。
利用者あたり管理コスト	支出／利用者数	利用者1人に対する管理コストについて、過年度実績や類似施設と比較することにより、当該施設の効率性を確認する。（コストが抑えられていても利用者が減少していないか、あるいは利用者は増加しているがコストがかかり過ぎていないかなど） ※変動がある場合には、その要因を整理すること。 ※過年度に対し上昇している場合、現状の利用者数に対して支出が過大になっていないか確認する。また、過年度に対し減少している場合、現状の利用者数に対し、必要な変動費が十分に充てられているか確認する。
利用者あたり自治体負担コスト	指定管理料／利用者数	利用者1人に対する県の財政負担を確認する。 過年度実績や類似施設との比較により、当該施設の効率性を確認する。

Ⅳ. 総合評価
1. 目標

評価項目		評価指標	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	目標設定の考え方
成果指標	①利用状況	利用者数	2,810,000	2,774,000	2,975,000	3,058,000	「R4-8国営沖縄記念公園運営維持管理業務民間競争入札実施要項」の海洋博覧会地区の公園利用者数を基に、水族館利用者数を算出(R5年度は入域観光客数を基に算出)
	②満足度	満足度	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	S評価を目標とする
財務指標	③財務状況	収益率	4.5%	2.5%	2.5%	2.5%	水族館利用者数を基に算出

2. 評価結果

評価項目		評価指標	令和3年度実績(年間)	事業計画(目標値)	令和4年度実績(2ヶ月)	前年比	計画比	現状分析・課題	評価(点数)	取組改善案	令和5年度目標値
成果指標	①利用状況	利用者数	620,115	279,000	477,841	77.1%	171.3%	・10月からの全国旅行支援の実施によって、個人旅行が増加し、修学旅行が回復した。また、水際対策の緩和による外国人客の増加しており、それに伴い入館者数が計画に比べて大幅に増加した。	S (20)	・県・OCVB・旅行社・航空会社・北部地域等との連携による誘客活動や施設の魅力を伝えるSNS等の広報を強化し、国内外からの安定した入館者数の確保を図る。 ・混雑によって利用者満足度が低下しないよう、分散化を図る取組を進める。	2,810,000
	②満足度	満足度	96.3%	90.0%	97.8%	101.6%	108.7%	感染拡大防止対策(第5類)及び来園者のニーズを継続的に収集しながら、施設の管理運営に活かしていく。	S (20)	今後も適切な維持管理・運営業務に努める。	90.0%
財務指標	③財務状況	収益率	-5.7%	-21.6%	4.0%	70.0%	18.3%	・入館者数の増及び10月の入館料金の改定(大人料金で300円値上げ)による入場料等収入の増、開館20周年記念商品の投入、全国旅行支援のクーポン利用などにより物販利用者数及び客単価が上昇し、利用料金収入が増加し、収支は大幅に改善した。	A (5)	・飼育展示の充実等により施設の魅力を高め、更なる入館者数の確保に努める。 ・必要な経費削減の取組は継続しつつ、収入増につながる必要な施策を見極め、効率的な支出を図る必要がある。特に、開館から20年が経過し、修繕費用の増加が見込まれることから、必要な施設維持を適時に行い、顧客満足度を維持する。	4.5%
活動指標	④重点取組事項	体験プログラムの充実	52,297人	—	26,110人	49.9%	—	イルカおよびウミガメ給餌体験等の体験機会の増加により、参加者数が増加した。	—	イルカおよびマナティー体験学習等の回数増加を図る。	—

総合評価	・新型コロナウイルスの影響は続いたものの、利用者数は回復傾向となった。利用者のニーズに合わせて通常期と繁忙期の時期の見直しを行い、MICEの受入れ等をすることで効率的な施設運営を行った。 ・引き続き体験プログラムの充実やオンラインイベント等を活用し、魅力度アップや満足度向上に取り組んでいく必要がある。	S (45)

※重点取組事項の「評価指標」には具体的な取組内容を記載すること。
※「総合評価欄」には、モニタリングの実施結果に基づき、施設の管理運営が適正に行われているか所見を記載すること。
※「現状分析・課題」、「取組改善案」は6－Ⅰ～Ⅲから転記する。
※「α＋1年度目標値」は、「取組改善案」を踏まえ、現年度の目標を可能な限り数値目標として設定する。

【評価基準】

①利用状況

目標値に対する達成率

Ｓ：110%以上
Ａ：100%以上、110%未満
Ｂ：80%以上、100%未満
Ｃ：80%未満

②満足度

総合評価における満足度（各評価項目の平均値）

Ｓ：90%以上
Ａ：80%以上、90%未満
Ｂ：70%以上、80%未満
Ｃ：70%未満

③財務状況

収益率（事業収支／収入合計）

Ａ： 0%以上
Ｂ：-5%以上、0%未満
Ｃ：-5%未満

④重点取組事項

目標に対する評価

Ｓ：目標を大きく上回る
Ａ：目標を概ね達成
Ｂ：目標を下回る

【総合評価基準】

	総合評価基準
S	40点以上　かつ各評価項目においてC評価がないこと
A	25点以上
B	10点以上
C	5点以下

【各評価項目点数】

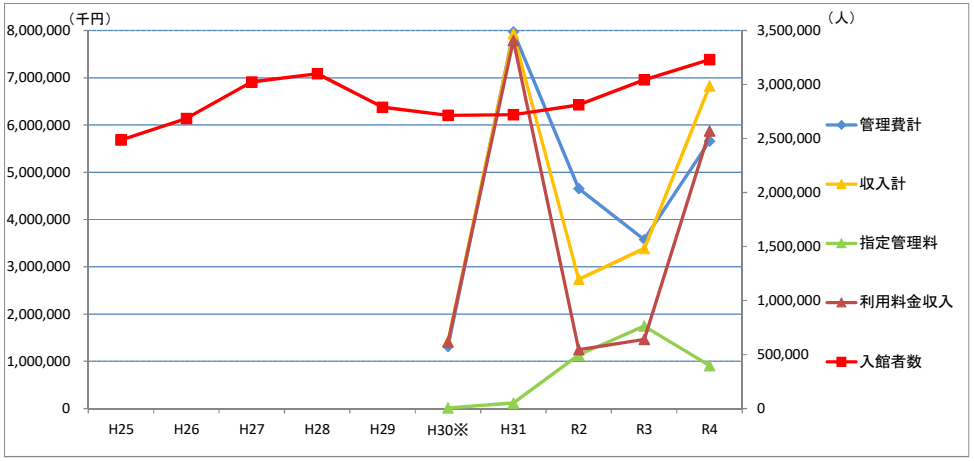
	① 利用状況	② 満足度	③ 財務状況	④ 重点 取組事項
S	20	20	ー	10
A	10	10	5	5
B	0	0	0	0
C	-10	-10	-5	-5

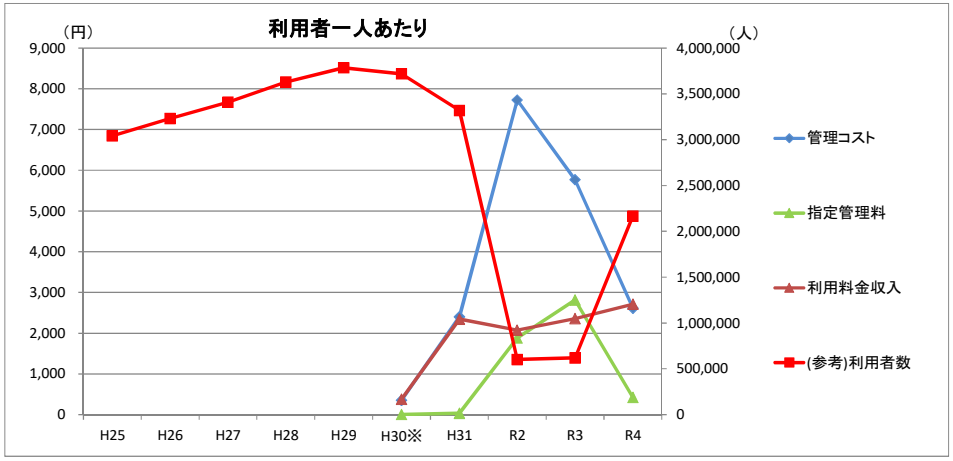
経営状況分析シート【施設名称：沖縄県国営沖縄記念公園内施設（海洋博地区内施設）】

指標			単位	国管理 H15	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	沖縄県指定管理 H30※	H31	R2	R3	R4
成果指標	入館者数	目標	人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3,640,000	720,000	1,660,000	1,519,000
		実績	人	2,487,500	2,684,832	3,023,328	3,100,730	2,790,649	2,715,090	2,720,887	2,811,480	3,043,776	3,230,468	3,408,521	3,628,332	3,784,132	3,718,446	3,320,018	602,503	620,115	2,164,514
		目標比	%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	91%	84%	37%	142%
		H15比	%	100%	108%	122%	125%	112%	109%	109%	113%	122%	130%	137%	146%	152%	149%	133%	24%	25%	87%
	満足度	実績	%														97.9%	98.3%	96.3%	74.9%	97%
財務指標	指定管理料		千円														13,648	118,911	1,135,607	1,745,840	909,790
	県負担割合（指定管理料／管理費計）		%														1.0%	1.5%	24.4%	48.8%	16.1%
	利用料金収入		千円														1,412,720	7,792,152	1,248,073	1,463,667	5,874,778
	利用料金比率（利用料金収入／収入計）		%														99.0%	98.2%	45.6%	43.2%	86.0%
	収入計		千円														1,427,027	7,931,912	2,735,369	3,387,343	6,828,092
	管理費計		千円														1,314,075	7,974,556	4,652,909	3,578,950	5,661,586
	収支		千円														112,952	−42,644	−1,917,540	−191,608	1,166,505
	収益率（収支／収入計）		%														7.9%	−0.5%	−70.1%	−5.7%	17.1%
/単位	一人あたり管理コスト		円														353	2,402	7,723	5,771	2,616
/単位	一人あたり指定管理料		円														4	36	1885	2,815	420
/単位	一人あたり利用料金収入		円														380	2,347	2,071	2,360	2,714

県への管理移管（H31.2）以前のデータ無し

※施設の特性に応じて、経営状況の分析に適した指標の追加・削除や、表示方法の修正を行うこと。
※グラフは直近10年間の実績で作成すること。指定管理者制度導入前に直営の期間がある施設については、指定管理者制度導入直前1年間のデータも含めて作成すること。
※沖縄県による管理が平成31年2月から開始されたため、入館者数以外については、2ヶ月分の結果となっている。管理以前の入館者数については、国営沖縄記念公園事務所パンフレット参照





実績変動の要因分析

令和4年度	
令和3年度	
令和2年度	
令和元年度	